



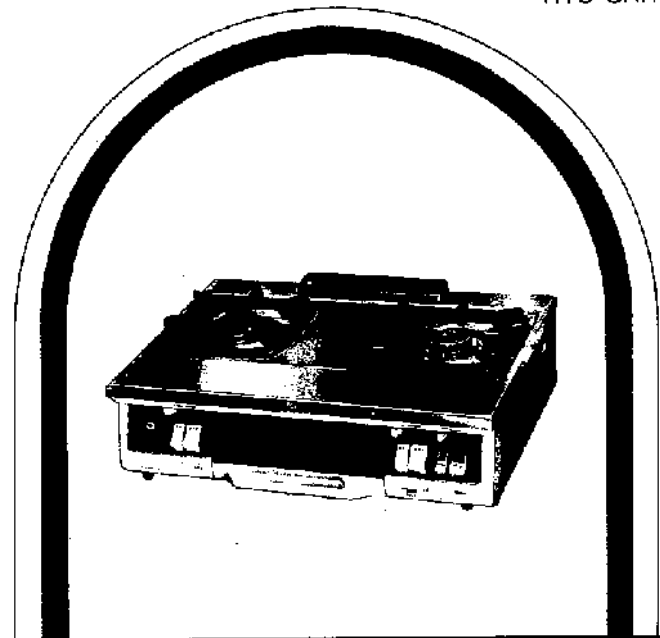
ガス テーブルコンロ

取扱説明書

10-950
10-951 型

保証書付

型式名 RTS-3AHB-LQ
RTS-3AHB-RQ



本社ガスビルサービスセンター・支社所在地および電話番号

本社・ガスビルサービスセンター	〒541	大阪府東区平野町5丁目1	大阪	06 (202) 2221
南支社	〒557	大阪府西区玉造2丁目9番11号	大阪	06 (952) 0001
北支社	〒532	大阪府淀川区十三丁目3番35号	大阪	06 (301) 1251
京支社	〒590	茨城県水戸市口之下2番1号室	東京	0226-330 1131
北原支社	〒569	富山県富山の里町3丁目3番5号	富山	0726-071 0301
阪神支社	〒602	西宮市和上町4番1号	西宮	0798-025 3101
京都支社	〒608	京都市船場区東2丁目3番17号	京内	075-662 1131
京阪支社	〒573	枚方市西丹波町1丁目17号	枚方	0720-041 1251
神戸支社	〒650	神戸市中央区神生町5丁目13番11号	神戸	078-5276 5231
京橋支社	〒604	京都市中京区東丸太町2番5号	京橋	075-2311 8151
奈良支社	〒581	奈良市学園北2丁目4番1号	奈良	0742-044 1111
和歌山支社	〒640	和歌山市本町1丁目1-1	和歌山	0734-031 2481
姫路支社	〒670	姫路市神楽町4丁目5号	姫路	0792-085 2221
東海支社	〒675	加西市本町西1丁目2番1号	加西	0794-011 1801
豊岡支社	〒668	豊岡市三坂町6丁目57番地	豊岡	0792-013 2221
湖南支社	〒625	京都市左京区新学町6番Cの1	京東	075-562 5311
奈良支社	〒522	奈良市大塚町1丁目11号	奈良	0749-023 3731
長岡営業所	〒526	茨城県水戸市宮町4番4号	長岡	0749-062 7571

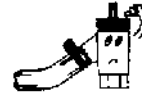
その他大阪ガスサービスショップ

大阪ガス株式会社

ガス器具をお使いいただくためのこと



ガスゴム管も
とぎとぎ点検
よいゴム管を
ガッチリと



ガス器具を
お使いになった
あとは必ず
ガス元栓も
閉める習慣を



毎日使う
ガスコンロの
バーナなど器具も
とぎとぎお手入れを



ガス器具は
ガスの種類にあった
正しいものを

●ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
なお、ご不明な点があればお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ごあいさつ

このたびは、大阪ガスのガステーブルコンロをお求めいただきありがとうございました。

別添の保証書とともに、この「取扱説明書」を大切に保存してください。

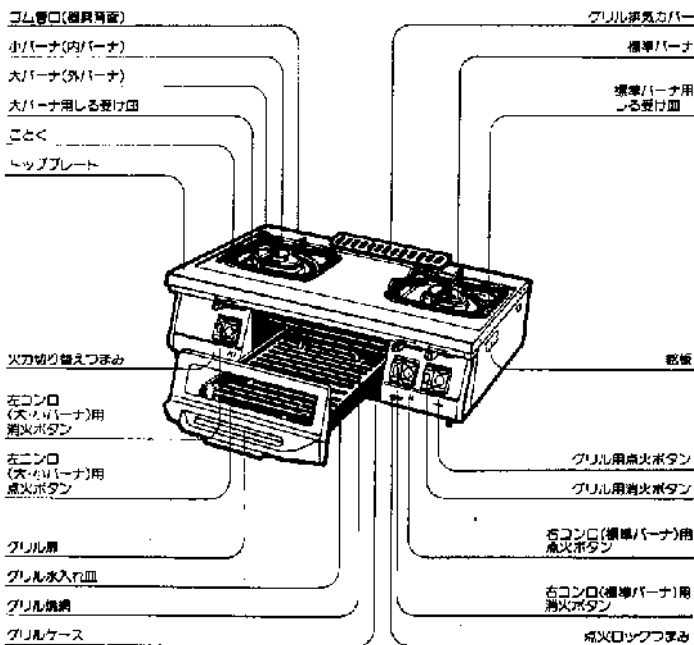
もくじ

- 各部の名称.....1
- 特に注意していただきたいこと.....2
- 器具の設置.....8
- 使用手順.....12
- 使用時のご注意.....17
- 煮こぼれ消火センサーについて.....18
- 煮こぼれ消火センサーが作動したときの処置方法.....18
- 日常の点検・手入れ.....19
- 故障・異常の見分け方と処置方法.....23
- 長期間使用しない場合.....24
- アフターサービスのお申し込み.....24
- 特長.....25
- 外形寸法図と仕様一覧表.....26
- 別売部品のご紹介.....27

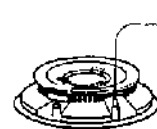
各部の名称

※ 図は10-950型です。

10-951型は左右コンロが逆になっています。



●附属品



煮こぼれ消火センサー

煮こぼれなどで火が消えたときに30秒〜1分以内にガスを自動的に止めます。

グリル焼網



グリル排気カバー



中継なべ用補助ごとく



ゴム管ホルダー



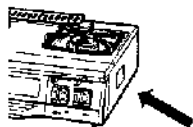
特に注意していただきたいこと

安全に正しくお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

使用ガスについてのご注意

- ガスの種類を確かめてください。

ガス器具本体の右側面にはついている銘板(ラベル)に表示のガスの種類とお宅のガスが一致しているかを必ず確かめてください。



(銘板)

メーカー型式

ガスの種類およびグループ

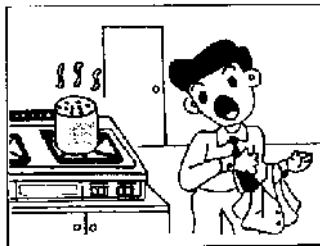
ガス消費量
製造年月および製造番号
製造業者名

- 都市ガス用6C
- 都市ガス用6A
- 都市ガス用13A
- LPガス用

- ガスの種類には都市ガスとLPガスとがあり、都市ガスにはガスグループの区分があります。
- 転宅されたときにも、供給ガスの種類と器具銘板のガスの種類の一致を必ず確かめてください。

用途についてのご注意

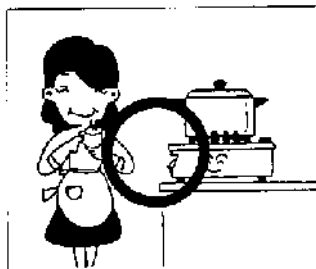
- 調理以外の用途(炭・薪炭おこし・衣類の乾燥など)には使用しないでください。
過熱・異常燃焼などによる焼損・火災などの危険があります。



特に注意していただきたいこと②

市販の補助用具使用についてのご注意

- 極端に大きな鉄板やなべ、熱を逃がさないようにするためのなべ枠、または不良の補助用具などで炭をふさいで使うことはさけてください。
不完全燃焼をおこしたり、器具を異常に過熱し危険です。



- しる受け皿の上に市販のアルミはく製する受けを敷いてお使いになる場合は、しる受け皿に十分なじむようにしてお使いください。
- アルミはく製する受けは、しる受け皿の中央部の穴より大きな穴をあけてください。

アルミはく製する受け



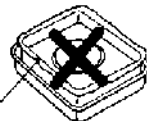
しる受け皿



小さすぎる



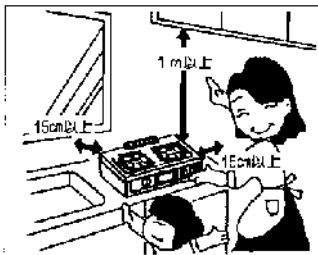
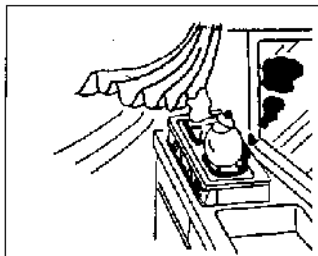
あき上り



特に注意していただきたいこと③

使用場所についてのご注意

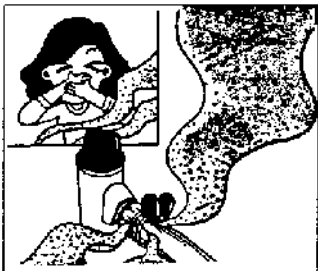
- 強い風の吹き込む所では使用しないでください。
炎が風で吹き消えることがあります。
- カーテンや、燃えやすいものの近くでは使用しないでください。
燃え移る危険があります。
- たなの下など、落下物の危険のあるところでは使用しないでください。
- テーブルコンロの周囲が木材のような可燃性の壁面の場合は、過熱を防ぐため左右及び後面ともに15cm以上、上方は1m以上離してお使いください。
- 上記の距離がとれない場合は、必ず別売の防熱板を取りつけてください。
壁が長期加熱されると比較的低温でも自然発火することがあります。



使用上のご注意

ガス漏れ予防

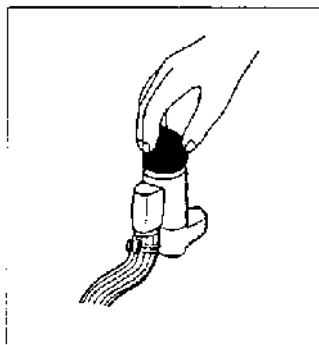
- ゴム管はガス用ゴム管を使用し、ビニール管は絶対に使用しないでください。
ビニール管は弾力性がなく、熱にも強くありません。
- ゴム管は良質のものを用い、ときどきとりかえてください。
ゴム管が古くなりますと、ガス元栓や器具のゴム管口から剥けやすくなり、ヒビ割れしてガス漏れの原因になり危険です。



特に注意していただきたいこと④

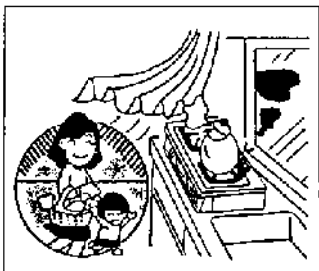
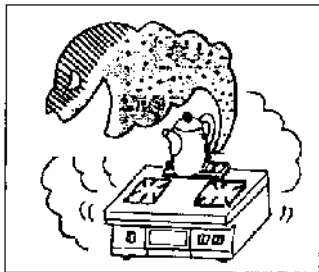
使用上のご注意

- 器具をご使用にならないときや外出前、またおやすみ前には万一の事故がないように、必ずガス元栓を閉めてください。
- 使用中は決して外出しないでください。
カラ吹きになるなど思わぬ事故の原因になります。
- 使用後は必ず消火ボタンを押し、消火したことを確かめてください。
- 使用中はときどき正常に燃焼していることを確かめてください。



火災予防

- グリル使用中はグリル排気カバーの上に物をのせないでください。
不完全燃焼や異常過熱の原因になります。
- 器具の上やそばに燃えやすいもの(紙、カーテン、家具、揮発油など)を絶対においたり近づけたりしないようにしてください。
- 火をつけたまま就寝、外出は絶対にしないでください。
- 天ぷらなど油料理の場合は、火をつけたまま場所を離れたり、加熱しすぎないようにしてください。
油温が上がりすぎると、油が自然発火し、火災の原因となります。



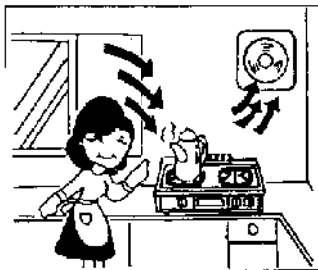
やけどのご注意

- ご使用中および使用直後は、器具本体とその周辺は熱くなりますので、手を触れたりしないでください。特に小さなお子様がいるご家庭はご注意ください。またグリルをお使いになるときは、排気口から高温の排気熱が出ますので、顔などを近づけないでください。



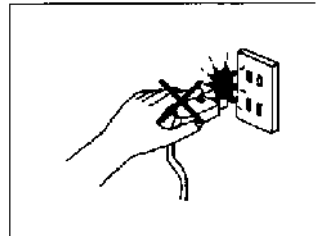
換気のご注意

- ご使用と同時に換気扇を回すなど換気にご注意ください。ガスが正しく燃えるためには、ガスの6~10倍もの空気が必要です。しめきった部屋で長時間使用すると空気中の酸素が減少し、不完全燃焼による一酸化炭素中毒の危険があります。



ガス事故防止

- ガス漏れに気づいたときは、すぐ使用をやめてガス元栓を閉じ、窓や戸を全部あけて、大阪ガス支社または大阪ガスサービスショップに連絡してください。



〈ご注意〉

- 万一ガスが漏れたときは、絶対に火をつけたり換気扇その他の電気器具にふれたりしないでください。(スイッチの入・切や電線プラグの抜き差し等) 火や火花で引火し爆発事故を起こすことがあります。

異常時の処置

- ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときはそのままお使いにならず、直ちにご使用を中止(器具栓、ガス元栓閉止)して十分な点検をお願いします。(故障・異常の見分け方と処置方法については23ページをお読みください)

日常の点検・手入れ

- 器具を安全、快適にお使いいただくために、日常の点検、手入れは必ず行なってください。(詳しくは19ページをお読みください)
- 故障または破損したと思われるものは使用しないでください。不完全な修理は危険です。
- 万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご連絡ください。

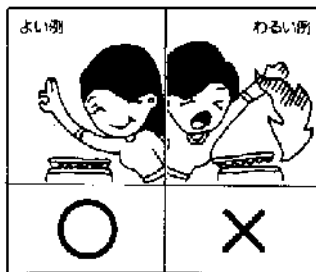
器具の設置

設置前の準備と確認

- 各部分のあて紙や包装部品を取り除き、各部の名称、のようによく組立ててください。
- 器具銘板の表示ガス（ガスグループ）とご使用になるガスとが一致しているかご確認ください。

部品の取り付け

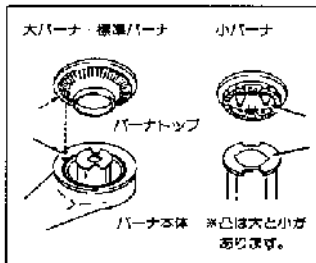
- バーナトップはギザギザが下になるようにはめ込んでください。またバーナ本体より浮き上がらないようにはめ込み確認してください。



〈ご注意〉

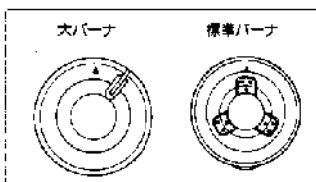
- この器具のバーナはすべてバーナトップに凸、バーナ本体に凹があり、各々はめ込みセットする構造になっています。

セットした後には必ず浮き上がっていないか確かめてください。



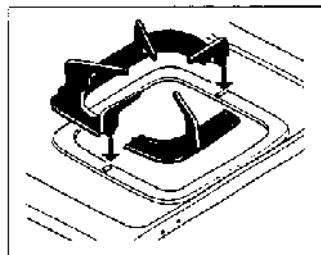
- バーナトップの取り付け

バーナトップの上面に▲印があります。標準バーナ、大バーナともに▲印が後側になるようにマットしてください。また小バーナは溝が前後になるようにマットしてください。



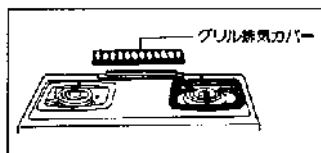
器具の設置②

- しる受け皿をトッププレートの上にガタつきのないようこのせてください。しる受け皿は大バーナ用と標準バーナ用で異なります。大バーナ用はL、標準バーナ用はMの刻印があります。

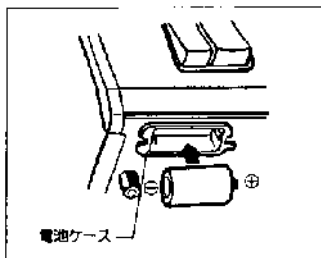


- ごとのツメをトッププレートの角穴にあわせガタつきのないように差し込んでください。

- グリル排気カバーは前方に傾斜がくるように乗せてください。



- 点火用の乾電池は電池ケース（器具前面左下にあります）にはめ込んでください。乾電池は単1（1.5V）1個使用です。

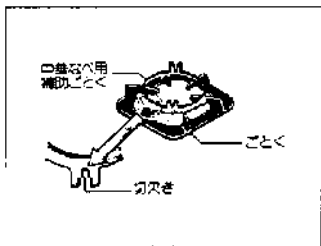


〈ご注意〉

- 乾電池が消耗してきますと点火しにくくなります。「パチパチ」という放電間隔が長くなりましたら早目に新しい乾電池にお取り替えください。

- 付属の中華なべ用補釘ごときは中華なべを用いて料理される時、なべの安定性を良くするために、ごとの上においてお使いください。ごとののせてから確実に固定されているか確認してください。

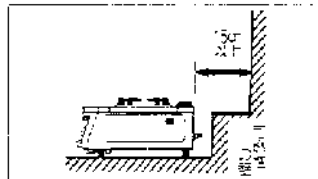
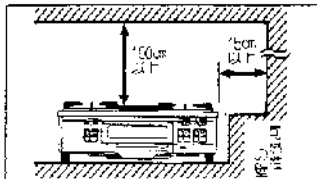
爪が3本ある方を下にして、切欠きをごとの爪にはめてください。調理台の上に底の丸いなべをおくときのなべ敷きとしても使用できます。



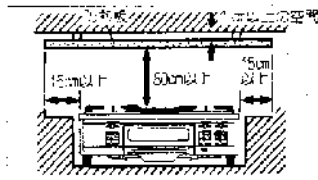
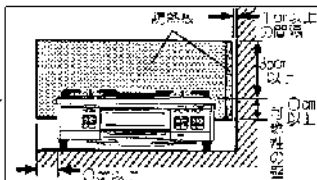
器具の設置

設置上のご注意

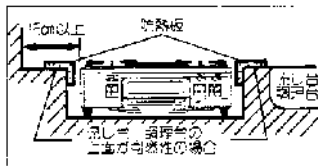
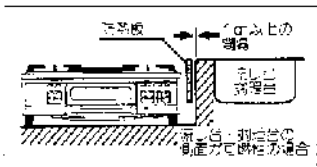
- 又大で水平なガス台上に設置してください。
- 耐火性などの点からできるだけ通気のないところを選んでください。
- 周囲に可燃物（木製の壁、たななど）のある場合
- トッププレートより上の側面及び背面は木製のような可燃性の壁から15cm以上離してください。可燃性の壁にステンレス板などを張ってある場合も同様です。また上部は器体上面から100cm以上離して使用してください。（火災予防条例で定められております）



- 可燃性の壁（ステンレス板などを張りつけた可燃性の壁も含む）から15cm以上離して設置できない場合
- 図のように必ず別売の防熱板を取り付けて使用してください。（5-100-0084-2）



- 可燃性の壁の高さが35cm以下の場合は右下の図のように取り付けてください。
- 可燃性の壁から15cm以上離して設置できる場合でも器具のトッププレートと流し台、調理台などの上面がほぼ同一のときは右下の図のように防熱板で流し台、調理台の上直を保護してください。（15-150-0105）

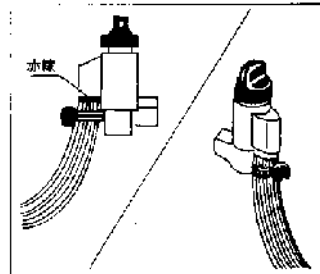


器具の設置④

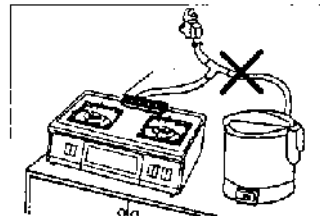
設置上のご注意

ゴム管の接続

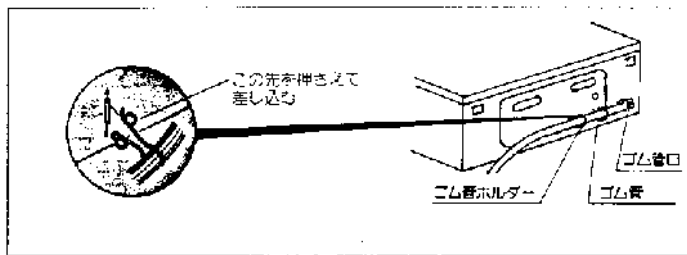
- ゴム管は赤線まで差し込んでしっかりと止めてください。9.5mmφ（内径9.5mm）のゴム管を使用し、ガス元栓・器具のゴム管口とも赤線まで十分差し込んで、ゴム管止めでしっかりと止めてください。ゴム管止めでしっかりと止めていないと、知らずにはずれかかってガス漏れが生じることがあり危険です。



- ゴム管はガス用ゴム管を用い、おれたりおれりしないよう、できる限り短かくし、また器具の下を通しず、器具に絡まないようにしてご使用ください。
- ゴム管の磨ぎ出しおよび二重分岐はしないでください。



- ゴム管が器具後部を横切る場合は、付属のゴム管ホルダーにゴム管を通し、図のように器体後部の穴に差し込んで固定してください。



使用手順

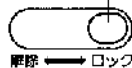
はじめてお使いのとき

- はじめてお使いになるときは、必ずグリル水入れ皿に水を入れ、換気をしながら2~15分のみ焼きをしてください。油を焼ききるためで、煙が出ても異常ではありません。

点火前の準備と確認

- 点火ロックつまみを左ハスライドして解除の位置にしてください。

点火ロックつまみ

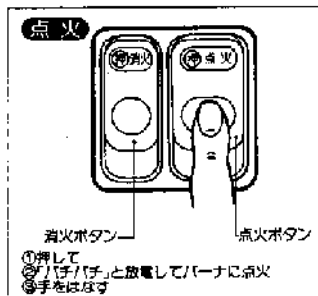


〈ご注意〉

- 点火ロックつまみは左・右こんろ、グリルともすべてが消火の状態で作ってください。左・右こんろ、グリルの中で一つでも点火の状態になるとロック操作ができません。
- 器具の近くに紙、プラスチック、油類など燃えやすいものが置いていないことを確認してください。
- 消火の状態確かめたら、各部屋のガス元栓を全開にしてください。
- グリルをお使いになるときは、グリル水入れ皿に水(カップ 杯強約200cc)を入れてください。

点火(左・右こんろ・グリル)

- 点火ロックつまみが解除してあることを確かめたら点火ボタンをいっばいに押ししてください。
- 「チパチ」と放電してバーナに点火します。バーナへ火移りしたことを確かめてから手をはなしてください。
- グリル部のみバーナへ火移りしたことを確かめてから数秒間(煮こぼれ消火センサーが働くまで)そのまま押し続けてください。



〈ご注意〉

- しばらく使わないで点火すると香はゴム管内に空気が入って点火しにくいことがあります。この場合は空気が抜けるまで数回点火操作を繰り返してください。

使用手順②

空気調節(左・右こんろ・グリル)

- 空気調節の必要のない構造になっております。点火したらそのままお使いください。

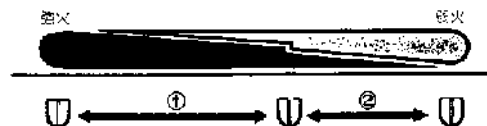
火力調節(左・右こんろ・グリル)

強火バーナ

- 強火から弱火まで火力切り替えつまみで幅広く調節できます。大バーナ(外バーナ)は①の間、小バーナ(内バーナ)は②の間で火力が変化します。炎の状態を確認しながら、ゆっくり操作してください。

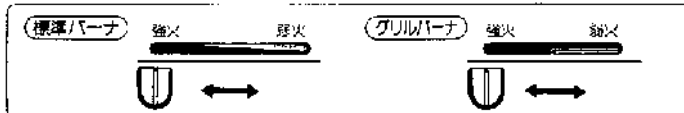
大バーナ 強火
小バーナ 強火

大バーナ: 強火 大バーナ: 弱火 大バーナ: 消火
小バーナ: 強火 小バーナ: 強火 小バーナ: 弱火



標準バーナ: グリルバーナ

- 火力切り替えつまみを「強火」と「弱火」の間でゆっくり操作してください。



使用手順③

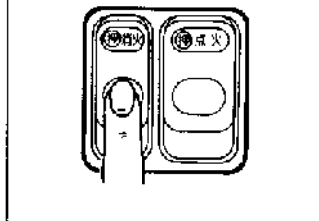
消火 (左・右こんろ・グリル)

- 消火ボタンを押してください。赤火ボタンがもどって消火します。

〈ご注意〉

- 必ず火が完全に消えたが確認してください。
- 消火後すぐにご使用になる場合は、数秒程まってから点火してください。
- 長時間使用されないとき(就寝時、外出時など)は、必ずガス元栓も閉めてください。
- 消火直後は火傷のおそれがありますので器具に手を触れたり移動させないでください。

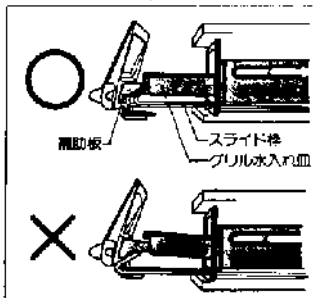
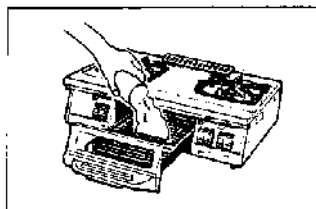
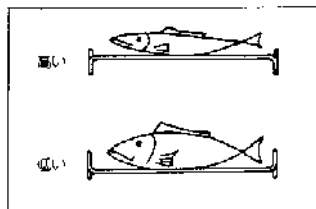
消火



※つまみをロックの位置にしますと、点火操作ができない安全機構になっています。小さなお子様のおられるご家庭では使用されない時は、安全のためにロックしてください。

使用手順④

グリル部の使い方



- グリル水入れ皿はグリルケースの底におき、奥にあたるまで入れてお使いください。
- グリル焼網はグリル水入れ皿の中に入れてお使いください。
- グリル焼網は足の高さが変えてありますので、焼物の種類・大きさにより高い低いのいずれかにしてご使用ください。大きい魚などを焼くときは低い方にご使用ください。
- 焼物はグリル焼網に合った大きさに切りグリル焼網にのせて焼いてください。
- グリル水入れ皿を取り出すときは途中で上まるところまで引き出して前の方を少し持ち上げて取り出してください。
- グリル使用時は必ずグリル水入れ皿に水を入れてください。(コップ1杯強約200ccが適量です)
- グリル水入れ皿に水を入れる場合は、グリル扉取手をもち手前に引き出してからコップなどで水を入れてください。ご使用の際はグリル水入れ皿をグリルケース内にあるスライド枠にのせてください。設置位置が悪いとグリル水入れ皿がガタついたり、出し入れの跡がこぼれたりしますのでご注意ください。
- またスライド枠は途中で上まる機構を採用していますので焼物の反転、焼き具合の確認が容易にできます。グリル水入れ皿をスライド枠にのせるときは、スライド枠を引き出してから、グリル水入れ皿の前面の補助板をスライド枠にはめ込んでください。

〈ご注意〉

- 使用時スライド枠、グリル扉ガラスは熱くなりますので直接手で触れないでください。

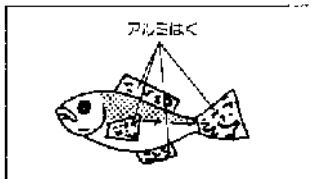
使用手順⑤

上手なグリルの使い方

- 予熱
- 表面のこげやすいもの（つけ焼き・照焼き・かす漬けなど）や、火の通りの悪い魚などは予熱しないでそのまま焼いてください。
- それ以外の魚や肉は、点火後3分～5分は予熱し、強い火になつてから材料を入れてください。またこの際グリル焼網にサラダ油を塗って同時に熱しておくとう材料がくっつきにくく、きれいに焼き上がります。

●魚焼きのコツ

1. 魚は水洗いしたらよく水をふきとってください。
2. こげやすい部分やヒレなどには厚目に塩を振りかけておくが、アルミはくで包んでおくとこげ方が少なくなります。
3. 一般に、塩を振ったらすぐに焼いてください。塩がしみ込みすぎると材料の風味がなくなり、硬つまくなります。
4. 魚はほどよい焼き色になったら裏返して焼き上げ、そのまま盛りつけてください。（裏面は表面より早い時間で焼き上がります）



- グリル使用中はグリル水入れ皿を奥にいっぱい押し込んでください。
- 続けてグリルを使用する場合は、グリル水入れ皿の水がなくなっていないか確かめてください。水がなくなると煙が当たり、グリル水入れ皿にたまった脂が燃えることがあります。水を補充しつづける場合、熱い扉ガラスに水がかからないようにご注意ください。扉ガラスが割れることがあります。

使用時のご注意

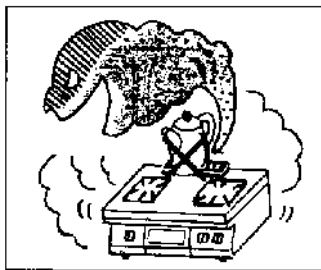
- 煮こぼれはバーナや器具を早くいためますのでご注意ください。（一度煮だつたら、沸騰がつづく程度の火力にしてご使用ください）
煮こぼれたときは、必ず完全にふきとってください。
煮こぼれで炎口がつまると炎が逆流して、器具の内側で熱えるおそれがあります。



- 点火の際は、こんろになべやヤカンをかけて点火し、全部の炎口に点火したことを確かめてください。



- グリル使用中はグリル排気カバーの上に物をのせないでください。不完全燃焼や異常過熱の原因になります。



- 炎の形や色の変化に気をつけてください。炎が異常に大きかったり、ふぞろいで音をたてたりすることがないようによく見てご使用ください。

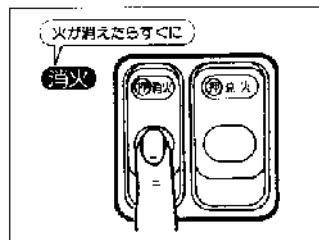
煮こぼれ消火センサーについて

- 煮こぼれ消火センサーは煮こぼれや風などで火が消えた時にガスを自動的に止める装置です。
- こんろ部に付いている煮こぼれ消火センサーは点火時に数秒押し続ける必要のないフィックセッター方式です。点火及び火移りを確かめればすぐ手を離しても大丈夫です。グリルはフィックセッター方式ではありませんので、バーナに点火後火移りしたことを確かめてから点火ボタンをそのままの位置で数秒押し続けてください。

〈ご注意〉

- 乾電池が消耗すると左右こんろのフィックセッターが働かなくなります。「パチパチ」という放電間隔が長くなりますら早めに乾電池を新しいものに切り替えてください。
- 左右こんろの点火時に手を離すと対火する場合は次のようにしてください。乾電池が新しい時………手を離す直前に一旦強く押しつけてください。乾電池が消耗している時……乾電池を交換するまでの間は点火後3～5秒間点火ボタンを押し続けることによりお使いいただけます。

煮こぼれ消火センサーが作動したときの処置方法



- 使用中バーナが消火したときは、すぐに消火ボタンを押しお部屋のガス元栓を「止」の位置にもどし、23ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」及び、次の方法により処置してください。

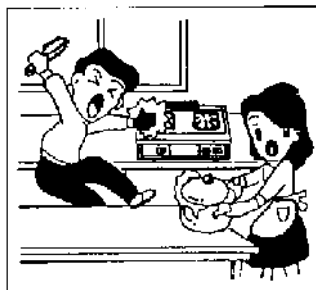
●処置方法

- バーナの火が消えたときは煮こぼれ消火センサーが働いて自動的にガスが止まりますが完全に止まるまでに少し時間がかかります。(30秒～1分間程度)バーナの消火に気づいたときは、すぐに消火ボタンを押し消火の状態にしてください。
- 再点火される場合は、扇風機にガスがなくなるまでしばらく(数分)待つてから「使用手順」に従って点火してください。

日常の点検・手入れ

点検・手入れの際のご注意

- 点検・手入れについては、下記の日常の点検以外は大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社に依頼してください。
- 点検で異常を見つけれたときは、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社に修理を依頼してください。
- 点検・手入れの前には必ずガス元栓を戻し、器具が冷えてから行なってください。



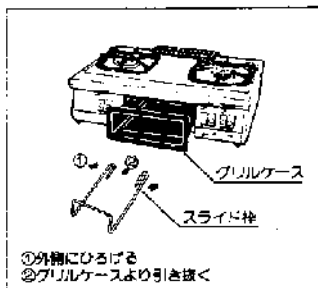
点 検

- 安全にお使いいただくためにときどき点検してください。
- ゴム管はガス用ゴム管を使用し、器具およびガス元栓ともゴム管口の赤線まで十分差し込み、ゴム管締めで上めてありますか。
- ゴム管が器具に触れたり、折れたり、ねじれたり、熱気が当たったりしていませんか。
- ゴム管が古くなって、ひび割れしたり、差し込み口がゆるんでいるためにガスが漏れていないかときどき右けん水などで点検してください。
- 器具の近くに、紙・プラスチック・布類など燃えやすいものを置いていませんか。
- バーナトップ、ごとくなどが正しくセットされていますか。
- バーナトップの炎口が煮こぼれなどで詰まっていますか。
- グリル水入れ皿に多量の脂がたまっていませんか。(脂がたまったまま使用すると脂が燃えることがあります)

お手入れ

- ごとく・しる受け皿・トッププレート・器体・グリル水入れ皿・グリル焼網・グリルケース・スライド枠

• そのつどお手入れしていただくのがいちばんです。煮こぼれなどの汚れは湿った布でふきとってください。液状の洗剤を布にふくませて汚れを落としたり（器体の場合）、洗剤をふくませたナイロンたわしで洗っていただき（器体を洗く場合）、お手入れ後はよくしぼった布で洗剤や水気を十分ふきとってください。



なお、グリルケースは簡単に引き出すことができます。（取り出すときは前の方を少し持ち上げて引き出してください）その際、スライド枠はあらかじめはずしておいてください。

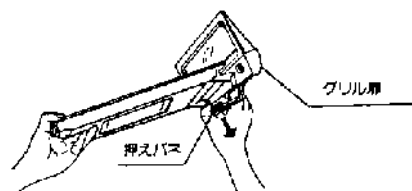
〈ご注意〉

- お手入れのとき、器体内部機構に水がかからないようにご注意ください。

- グリル扉
- ガラスに塵などが飛散した場合は、そのつどまぎ温かいうちに汚れを落としてください。
- グリル扉は、取りはずして洗うことができます。

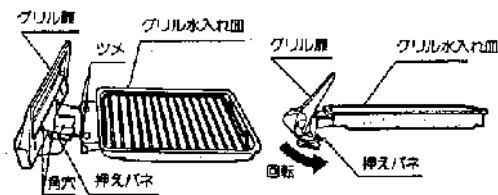
• 取りはずし方

- ① 押えバネを→の方向に下げる。



• 取り付け方

- ① グリル水入れ皿の凹み2ヶ所をグリル扉の角穴にはめ込む。
- ② →の方向に回転させる
- ③ 押えバネがグリル水入れ皿に確実にハマっているを確認する。



〈ご注意〉

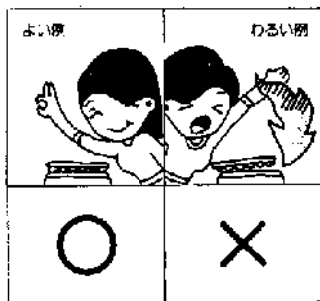
- ガラス・グリル扉取手は、ミガキ砂や金属片金タワシなどで、こすらないでください。グリル扉ガラスにきずをつけると割れる原因になります。

- バーナ(こんろ用)
- バーナトップを取りはずし、ブラシやギリ状のもので掃除してください。
- 目詰まりなどで赤くなったバーナは、取り替えていつもきれいな状態で使用してください。バーナを目詰りさせたまま使用しますと、不完全燃焼をおこすことがあります。



〈ご注意〉

- バーナトップの水洗いはできるだけさけ、水洗いされた場合は必ず乾いた布で十分水気をとっておいてください。
- バーナトップは大バーナ、標準バーナ、小バーナの3種類となっていますのではずれた場合、間違いないように取り付けてください。
- バーナトップを取りはずされた場合は正しくセットしてください。(詳しくは8ページ製品の取り付けの項をお読みください)
- バーナ本体の水洗いはやめてください。中がさびる原因になります。



- 煮こぼれ消火センサーは固いブラシなどでみがかないでください。故障の原因になります。また煮こぼれなどはすぐふき取るように習慣づけてください。性能が十分発揮できないだけでなく、寿命も短めます。
- 点火操作の火花の出る部分はさわらないでください。取り付け位置が狂いますと点火しなくなります。また火花の出る先端に手をふれたまま、点火ボタンを操作しますと電気ショックを受けますからご注意ください。(ただし人体には害はありません)
- 器具内の配線にはさわらないでください。

故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、ただちにご使用を中止して十分な点検をお願いします。

現象	原因	処置方法										
		ボタンの圧力を確認して点火する	点火針の調整・点火針の交換	点火針の交換	点火針の調整	点火針の交換	点火針の調整	点火針の交換	点火針の調整	点火針の交換	点火針の調整	点火針の交換
ガス元栓の開け忘れ・閉き忘れ		○	○	○		○	○			○	消火の状態を確かめてからガス元栓を全開にする。	12
ゴム管内に空気が残っている		○									ガスが正常に出るまで十分注意しながら点火操作を繰り返す。	12
ゴム管の折れ・曲がり・つぶれ			○	○	○			○	○	○	ゴム管の折れ・曲がりを直す。	11
点火装置の電極部の汚れ		○		○							汚れを拭き取る。それでも直らないときは点検を依頼する。	—
バーナ出口づまり・空気口づまり				○	○	○	○	○	○	○	づまりを取り除く。それでも直らないときは点検を依頼する。	21
バーナの取り付け不良				○	○	○	○	○	○	○	点検・修理を依頼する。	—
バーナトップの取り付け不良				○	○	○	○	○	○	○	正しく取り付ける。	8
点火操作が適切でない		○									「使用手順(点火)」参照。	12
点火装置のリード線の接続不良		○									点検を依頼する。	—
点火装置の故障				○	○						点検・修理・部品交換を依頼する。	—
器具の銘板と使用ガスが不一致				○	○	○	○	○	○	○	点検・修理を依頼する。	2
乾電池が消耗している		○	○								新品と交換する。	—
煮こぼれ消火センサーが作動		○							○		「煮こぼれ消火センサーが作動したときの処置方法」参照。	16
煮こぼれ消火センサーの故障		○								○	点検を依頼する。	—
器具内のフィルターづまり				○	○					○	点検を依頼する。	—

処置方法や原因のわからないときは、お買い求めの販売店または大阪ガス支社へご連絡ください。

長期間使用しない場合

- 各部の汚れを取り除き、十分に乾燥したのちほこりなどの異物が入らないようにゴニールをかけて、お求めになったときの箱に入れ、湿気やほこりの少ないところへ保管してください。特にガスの通路部分（ゴム管口など）にはほこりが入って通路をつまらせないように注意してください。

アフターサービスのお申し込み

サービスのお申し込み

- 23ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見てもう一度ご確認ください。
- 辭羽のうえ、それでも不具合な場合、あるいはご不明な場合はご自分で修理なさらないで、お買い上げの店またはもよりの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社にご連絡ください。なお、ご連絡いただきましたときは、次のことをお知らせください。
 - (1) 品 名……(テーパーバルブ)
 - (2) 品 番……左側面に貼ってあります。(例)
 - (3) 現 象……(できるだけ詳しく)
 - (4) 意 項……(できるだけ詳しく)

(N) 10 950 (U)

大阪ガス株式会社 04

転居される場合

- ガスには都市ガス13種類およびLPガスの区分があります。ガスの種類が異なる地域へ転居される場合は、部品の変換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類を確認の上、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご相談ください。この場合調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料修理となります。

保証書について

- この器具には保証書がついています。このテーパーバルブは保証書に記載のように、器具の故障について修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。保証書を紛失されますと、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

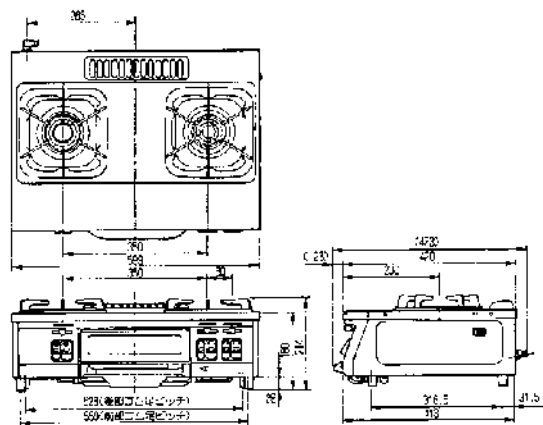
特 長

- 1 点火は、押しボタン式の乾電池による連続スパーク点火方式ですので、点火操作が軽快で確実です。
- 2 煮こぼれ消火センサー付きですので、煮こぼれや風などでバーナーの火が消えたときは、ガスを自動的に止めます。火が消えてから自動的にガスが止まるまでに、30秒～1分程度かかります。
- 3 保溫からの再料理まで幅広い火力が得られる「重バーナー式の強火バーナー」付きです。また火力はつまみひとつで調節できます。
- 4 グリルバーナーは赤外線バーナーですので、焼物の前まで美味しく焼くことができます。
- 5 グリル水入れ皿はスライド・ストップ方式の採用により出し入れや盛り付けが楽になります。
- 6 グリル後方排気方式の採用でグリル内部に煮こぼれなどが落ちず、またグリルまわりも汚さずにお使いいただけます。
- 7 ここの部分はパイロット（着火）がない省エネタイプです。
- 8 点火ロックつまみをロックの位置にすると点火操作ができない安全機構付です。

外形寸法図

※図は10-950型です。

10-951型は左右こんろが逆になっています。

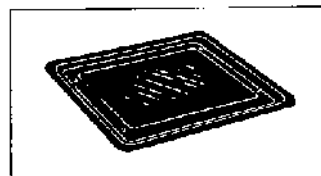


仕様一覧表

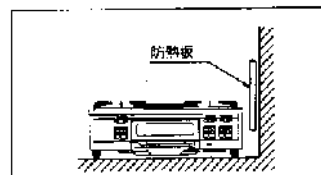
品名	10-950		10-951		
型式名	RTS-3AHB-LQ		RTS-3AHB-RQ		
点火方式	連続スパーク点火方式				
外形寸法	高さ180mm(トッププレートまで)×幅599mm奥行473mm				
重量(本体)	13kg				
使用ガス 使用ガスグループ	1時間当たりのガス消費量				ガス接続 ガス用 ゴム管 9.5mmφ
	個別ガス消費量			全点火時 ガス消費量	
都市ガス用	標準バーナ	強火バーナ	グリル	7500	
	6C(kcal/h)	2300	4100	1650	
LPガス用	標準バーナ	強火バーナ	グリル	8400	
	6A(kcal/h)	2000	3700	1650	
LPガス用(kg/h)	0.176	0.27	0.137	7100	
				0.57	

別売部品のご紹介

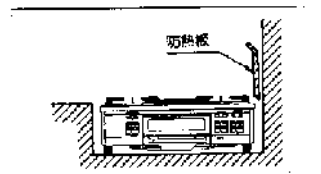
次の様な別売部品を装着しています。大阪ガスと、セービシヨップでお求めください。



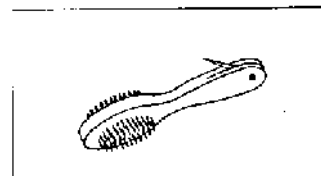
- ちり受け皿(コードNo: 15-100-0080)
- 器具の下、ガス台の上に設置してください。器具の下に落ちた蒸気はこれにより受け皿の上に落ちます。ときどき取り出して掃除していただくと、ガス台を汚さずに使用できます。



- 防熱板(コードNo: 15-100-0084~B)
- 設置場所で、可燃性の壁(ステンレス板等を張りつけた可燃性の壁も含む)から5cm以上離して設置できない場合、図のように取り付けて使用してください。



- 防熱板(コードNo: 15-100-0089)
- 60cm幅のガス台に設置されている場合、器具本体に取り付けて使用します。



- 掃除ブラシ(A94-100)
- バーナーが目づまりしたときに掃除していただくことで安定した燃焼が得られ、効率よく安心して使っていただけます。

MEMO

お願い

ガスくさいときは、お部屋の元栓を閉め、窓を全開にしてから（火気に注意して）、大阪ガス支社、サービスショップにご連絡ください。